

Cloudera SDX

エンタープライズグレードのセキュリティ & ガバナンスをデータライフサイクル全体に適用

- Cloudera SDXはエンタープライズグレードのセキュリティとガバナンスをあらゆるデータとメタデータに適用し、統合されたインターフェースで管理することができます。ハイブリッド・マルチクラウド環境すべてに、データのセキュリティとガバナンスのポリシーを適用することができ、一度設定すれば一貫して適用できるため、運用コストの削減とビジネスリスクの低減が可能です。
- SDXのData Catalogは、管理者とエンドユーザーの双方に統一したインターフェイスを提供します。データステュワードは、データのプロファイリングと分類ができるほか、分類および監査要件に基づいて、データアクセスポリシーを作成でき、機密データや規制対象データの完全な把握とトレーサビリティを実現できます。データユーザーには、Data Catalogによってセルフサービスポータルが提供されます。信頼できる関連ビジネス情報を発見して共有でき、プロファイリングの洞察、データリネージ、ビジネスグロッサリーを活用できます。

データ活用によってビジネスに最大限の価値を創出するためには、様々なデータを連携させて分析することが不可欠です。しかし、システムが統合されずデータが散在している場合、実現は容易ではありません。ハイブリッドやマルチクラウド環境では、複数のアーキテクチャーを横断して一元的かつ一貫性を持ってデータプロセスを表示および管理すること、すなわちデータの文脈が必要です。

Cloudera Data Platform (CDP)の重要な要素である Cloudera SDX (Shared Data Experience) は、データの文脈を提供しながら、セキュリティ、ガバナンス、インテリジェンスを強化して、以下のことを実現します。

- プラットフォームとそのデータに対する、きめ細かいセキュリティ
- 一貫したガバナンスを確立し、監査対応と透明性を向上
- データの所在や用途を問わず、インテリジェントな洞察を提供

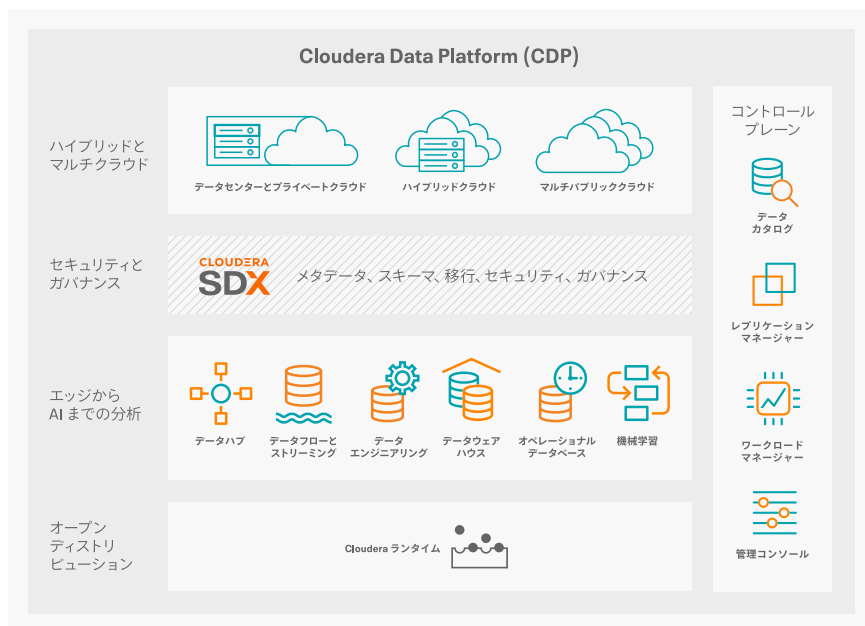
文脈のあるデータ

Cloudera SDX は、一貫した一元的なデータ文脈サービスを全てのプラットフォームに適用することで、共有データセットまたは重複したデータセットに対して何百もの多様なワークロードを実行できるようにします。

SDXによって、ビジネス上の洞察を導き出しながら、データガバナンスも適用できます。その結果、先進的なデータ使用に伴う運用コストとITスタッフの件費を削減しながら、セキュリティリスクの軽減、エンドユーザーエクスペリエンスの向上も図れます。CDPのインフラストラクチャー内にSDXがあることで、保存データと移動データの両方のセキュリティリスクが軽減されます。

データの文脈

複数のアーキテクチャーを横断して一元的かつ一貫性を持ってデータプロセスを表示および管理すること



Cloudera を選ぶべき理由

Cloudera Data Platform を使用することで、データと分析の戦略を効果的に実行して、高度化するビジネスニーズに応え続けることができます。

エッジから AI 分析まで

データライフサイクル全体の分析が1つのプラットフォームに統合されるため、単機能製品を組み合わせる必要がなく、コスト削減と運用の簡素化が可能です。

データのセキュリティとコンプライアンス全ての環境を横断して、一貫したデータのセキュリティとガバナンスを維持します。

ハイブリッドとマルチクラウド

全てのクラウドとデータセンターに同じデータ管理機能を提供します。

100% オープンソース

オープンコンピューとオープンストレージでベンダーロックインを完全に防ぎ、最大限の相互運用性を実現します。

Cloudera について

Cloudera は、データの力によって、今日不可能なことも明日には実現できると信じています。Cloudera は、複雑なデータを明確で実践的な洞察に転換する力を人々に与えます。Cloudera は、エッジから AI に至るまで、あらゆる場所のあらゆるデータに対応することが可能なエンタープライズデータクラウドを提供します。Cloudera は、オープンソースコミュニティの絶え間ない確信を原動力に、世界最大規模の企業のデジタルトランスフォーメーションを推進していきます。

詳しくは、cloudera.com をご覧ください。

機能と特長

SDX の主な機能と特長は以下のとおりです。

- エンタープライズグレードの強力なセキュリティ：標準化されたきめ細かい動的なロールベースおよび属性ベースのセキュリティポリシーを適用します。プラットフォーム全体で機微情報や機密情報への不正アクセスを防止および監査します。データを保存時から移動中までスタック全体で暗号化し、暗号キーを管理します。
- ガバナンスとコンプライアンス：機密データを特定して管理し、コンプライアンス要件に効率的に対処します。そのために、メタデータ検索、リネージと証拠保全、データアクセスの監査と分類、プロファイリング、ビジネスグロッサリーなどを用いた統合的なデータ管理を行います。
- 共有インテリジェンス：プラットフォーム全体におけるデータとワークロードの使用について洞察を得ることで、継続的な最適化を図るとともに、データに対する洞察を深め、データの価値を高めていくことができます。

クラウド対応の SDX

オンプレミスとクラウド環境のデータのライフサイクルすべてに一貫したセキュリティとガバナンスを適用しながら分析を行う方法が求められています。SDX は全てのクラウド環境とデータセンター環境に一貫したデータの文脈を提供することが可能です。

この自動的な文脈提供機能がない場合、ワークロードには不統一なポリシーが単発的または無計画に適用されてサイロ状態に陥りがちです。そうすると、複数のアーキテクチャーの多様な分析システムや分析アプリケーションに対して、ガバナンスとセキュリティのポリシーの実装、再作成、管理を IT 部門が行うことになり、過度の負担がかかります。

強力なオープンソースをベースとした SDX によって、IT 部門は、データの所在や用途を問わず、一貫したセキュリティとガバナンスを適用しながら価値あるビジネスインテリジェンスを得られるようになります。サイロ化されたデータもクラウド環境とデータセンター環境を横断してシームレスに運用できます。

SDX によってデータの文脈が提供されることで、高いパフォーマンスを発揮できるようになります。インテリジェントな洞察により、データスチュワードは多様なワークロードの稼動状況を把握でき、異変をすぐに発見できます。この情報は、CDP が行う改善の提案に使用され、パフォーマンスが低迷しているプロセスを自動修正して再構成することさえ可能になります。

データの文脈があれば、より迅速でコスト効率に優れ、回復力を備えた分析が実現します。常に観察を行うことで、継続的に最適化と改善を図ることができます。

CDP の一部である SDX により、データの所在や用途を問わず、エッジから AI まで、データライフサイクル全体を管理下に置くことができます。セキュリティ、ガバナンス、インテリジェンスの向上および一貫化により、データを迅速かつコスト効率良く活用できるため、セキュリティとガバナンスのきめ細かい統制が維持され、ビジネスの成果の向上につながります。

詳しくは、cloudera.com/sdx をご覧ください。